

平成 25 年度 公益財団法人焼津市振興公社事業報告

1. 総括事項

公益財団法人焼津市振興公社は、その目的を達成するため、平成 25 年度において概ね次のような事業を行いました。

(1) 地域文化の振興

焼津文化会館及び大井川文化会館では、国内外の優れた芸術文化の鑑賞機会を広く市民に提供するとともに、市民の芸術文化活動を支援するため自主文化事業を鑑賞型、普及型、参加型とバランスを取り積極的に実施しました。事業の実施については、市民の要求と経済性を考慮した上で良質な催事を企画し、他の団体・機関との共催事業を含め 74 本（焼津 45 本・大井川 29 本）の自主文化事業を行い、多くの市民の鑑賞・参加を得、好評を博しました。

観客動員の増加対策として、テレビ、ラジオ、新聞広告等を利用し、不特定多数を対象とした事業PRを積極的に展開するとともに、ネット会員へは電子メールでの事業情報を配信しております。また、平成 25 年度からは新たな情報発信手段として「公社フェイスブック」の活用も開始しました。さらに、両館で発行していましたが文化事業情報紙を統合し、配布範囲を拡大した新たな「いべにゅ」を毎月発行しております。

平成 23 年度に導入したチケットシステムは、インターネット予約やチケット受け取りをコンビニでも可能とすることで、利用者の利便性やサービスの向上に繋げております。また、より多くの人々が気軽に利用できるよう託児サービスや育児中の方を対象にしたミニコンサートにも取り組んでおります。

ディスカバリーパーク焼津天文科学館では、光学式プラネタリウムと国内最高水準となるCGによる複合型プラネタリウムを活用し、小学校の理科授業に伴う学習投影のほか、名誉館長である松本零士先生の「銀河鉄道 999」などを投影しました。

また 1 階展示・体験室では、職員の自主制作により、見て、触れて、体験しながら科学を学べる参加体験型の特別展「おもしろ身体測定」などを開催し、好評を得ました。

さらに 25 年度は、理科担当教員による夏休みの理科自由研究相談会を開催することができました。また、焼津市教育研究会理科部の先生方との連携を深め、理科研究論文審査会を当館で開催していただくとともに、その優れた作品にディスカバリーパーク焼津賞を授与させていただきました。今後とも、当館が地域の科学教育の拠点となるよう努めます。

(2) 公の施設等の管理運営の受託

地域文化の振興拠点である文化センターの施設管理と両文化会館の運営、天文科学館の管理運営、ディスカバリーパーク焼津内の公園・広場の維持管理を受託しました。

両文化会館及び天文科学館の施設運営につきましては、市民の様々な要求と期待に添うことができるよう、複合施設としての機能を生かすとともに、弾力的、効果的な運営に努めました。その結果として、焼津文化会館では大小ホール、会議室等の効率的な貸館業務の運営を行い、年間利用者数は 240,401 人、大井川文化会館では、利用者数 79,908 人となりました。

また、天文科学館では、一般来館者や小中学校をはじめとする多くの団体にご利用いただき、平成 25 年 9 月 14 日に有料入場者 300 万人（温水プールを含む）を達成し、年間有料入場者数は、101,142 人となりました。

以上により、今期の収支は経常収益 554,527,415 円、経常費用 552,107,554 円、経常外収益 0 円、経常外費用 0 円で当期経常増減額 2,419,861 円となりました。これに法人税等 118,900 円を差引し、当期一般正味財産増減額は 2,300,961 円となりました。

今後とも、焼津市との緊密な連携の下、公社の合理的な運営を図り、市民サービス向上に一層の努力を重ねる所存です。

<附属明細書の作成について>

平成 25 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附則明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しておりません。